

総合計画基本構想のイメージ

人口減少や若者の転出、地域コミュニティの維持といった課題を踏まえ、市民アンケートやワークショップ、関係団体ヒアリング等の調査から導かれた「地域の力」を基盤に、第6次津久見市総合計画の「基本構想」となる、10年後の津久見市が目指すシナリオと「3つの柱」の案を示します。

I. これまでの各種調査の結果から

【現状】
進学・就職に伴う20代前後や家庭を持つ30代など、若い世代の転出傾向が顕著

- 【弱み】**
- 希望の仕事分野が少ないことによる働く場所の充実度の低さ
 - 生活インフラの乏しさによる子育てのしにくさ
 - 生活利便性の低さや仕事の選択肢の少なさから、将来津久見市に住みたい高校生が少ない
 - 高齢化により、様々な場面での担い手不足 など

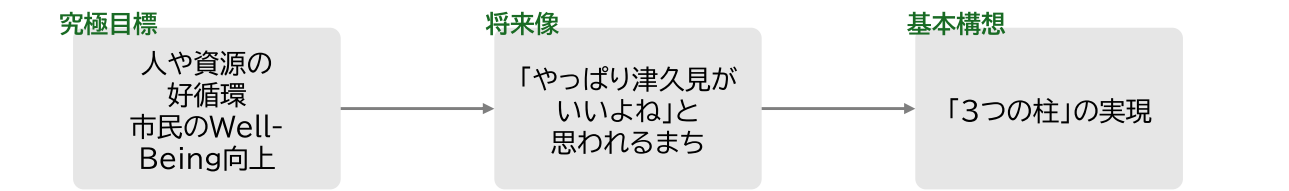
- 一方で…
- 【強み】**
- 基幹産業がしっかりしている
 - 農地の基盤整備や新規就農
 - 魚種も豊富で魚価も安定しており、流通も見込まれる漁業
 - 特産品の高付加価値化の可能性
 - 良好な海の環境
 - 津久見市への愛着・地域のつながり など
- ⇒地域資源＝地域の力

II. 地方創生2.0基本構想(内閣官房 R7.6.13閣議決定)との整合性

- 人口減少が続く事態を正面から受け止めた上で、「強い」経済と「豊かな」生活環境の基盤に支えられる多様性の好循環が「新しい日本・楽しい日本」を創ることを目指す、今後10年間を見据えた方向性を示す基本構想
- **政策の5つの柱**
 - 安心して働き、暮らせる地方の生活環境の創生
 - 稼ぐ力を高め、付加価値創出型の新しい地方経済の創生
 - 人や企業の地方分散
 - 新時代のインフラ整備とAI・デジタルなどの新技術の徹底活用
 - 広域リージョン連携
- ・ 地方創生2.0の「5つの柱」を踏まえ、生活必需サービスの維持・確保や防災力の強化を図りつつ、津久見市の強み(基幹産業、自然の恵み、地域のつながり等)と課題(若者の流出、インフラ不足等)を活かし、以下の方向性を目指す

III. 将来のシナリオ

10年後の津久見市が目指すシナリオからバックキャストで「3つの柱」を考えます。



IV 3つの柱(案)

- 市民の声から挙がる「地域の力」(人、ミカン、セメント、水産資源、良好な港、自然景観)を結集し、安心と豊かさを実感できる未来を構築
- ・ 住む場所として選ばれるためには、近い将来発生が予想されている南海トラフ巨大地震をはじめ、巨大化する災害からの安心安全をはじめ、医療、福祉など安心を実感して暮らすことができる地域づくりは一丁目一番地
- ・ ミカンやセメント、豊富な魚、良好な海など今ある豊かさを改めて実感できるとともに、新たな産業などこれまでにない豊かさを実感できる地域をつくる
- ・ 人のつながりや地域への愛着などを市民が実感しつつ、これからの津久見を彩る多様な人財が育まれる地域をつくる。

柱	サブタイトル	概要
1 安心を実感する地域	暮らしの基盤を整える	防災、医療、福祉、交通インフラなどの整備によりコンパクトで安心を感じる地域を構築する。デジタルも活用することで、より若い世代や高齢者の安心への実感の向上を目指す。
2 豊かさを実感する地域	地域資源を活かし、稼ぐ力としごとを生み出す	セメント、ミカン、漁業や良好な海の環境など自然環境等の地域資源の活用や、それらを活用した若者や女性などから魅力ある新たな雇用環境の整備など経済的・精神的な豊かさや賑わいを実感できる地域を目指す。
3 多様な人財を育む地域	人が育ち、地域がつながる	子どもから高齢者までを対象に、子育て支援、義務教育、スポーツ、文化、生涯学習を通じた人財(材)・郷土愛を育成するとともに、地域コミュニティの維持強化を目指す。また、デジタル活用で関係人口の拡大を目指す。